

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「いっしょに」「たのしみながら」一人ひとりのその人らしさを大切に		パートナーとして寄り添う姿勢。自己満足にならぬよう日々、自分自身へ問いかけている。(職員全員)
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その内容を日々確認できるよう、ホーム内のいたるところに掲示してある。(忙しさにまぎれ忘れぬように)	○	常に理念を念頭に置き支援するようこれからも心がけていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に社訓や運営理念を掲示してある。またパンフレット始めホームページ、2ヶ月に1度発行の広報にも必ず運営理念を入れている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に出かけ近所の人たちと挨拶を交わしている。また、通りすがりの方々に職員は挨拶をしている。隣接するホームさんの行事に参加させていただいている。		地域の方に、施設のことを知っていただくために近所や地域の方に広報の配布や、広報を回覧板に回してもらっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会自体が今年発足しておりあまり活動していないとのこと。町内の盆踊り大会に参加予定であったが、雨のため参加できず。10月より、やっと地域の回覧板がまわるようになった。(以前からお願いしていた)	○	町内会の活動とともに、参加できそうなことには積極的に参加し、地域交流を深めていきたい。また、地域の中学校、保育園との交流を予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今後取り組む予定		運営推進会議にて地域高齢者の情報を集め、役立つことがないか考えていきたい。また広報の掲載記事に感染予防や認知症相談、健康相談など盛り込む予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	高い意識を持ち続けるための良い刺激と受け止めている。自己満足に終わらぬよう第三者からの助言・気づきにさせていきたい。		気づきがあった際は、その都度改善できるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行えていない。		どのように活用してよいか思案中であったが、他の施設の会議に参加、見学する機会があり、ヒントをいただき頑張る力がわいてきた。今後の会議に役立てていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	まだ行えていないが、わからない事などはその都度担当者に聞いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の方で、権利擁護利用中の方がいる。その方が、現在成年後見制度利用の手続きをしている。権利擁護、成年後見制度のパンフレットを置き、職員にも周知するようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加で学ぶ機会を得ている。職員全体で気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、同意書を示しながら丁寧に説明している。その後も家族からの質問など受付けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月ごとの家族への報告、様子のお知らせの手紙の中に、ホームへの意見、質問、不満等ありましたらお知らせくださいとの、一文を入れている。また、面会者がいらした場合は、居室で過ごしていただき利用者の方が思っていることなど言いやすくしている。	○ 意見箱の設置準備中。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回後家族様あてに居室担当が身体、生活状況を書いた手紙を渡している。担当が変わった際はその都度報告している。	○ 職員の異動があった際は、2ヶ月に1回発行の広報に載せるなどして報告できるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や意見などは、その都度職員申し送りノートに記載し、目を通した職員はサインをすることで徹底している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ハード面での不都合は、その都度運営者に話を通している。ほか、月1回の職員会議で聞くようにしている。レクリエーションなどは、職員のアイデアで日々行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な休み希望は、話し合い必要な職員を確保できるよう対応している。職員連絡簿もあり、緊急時も対応できるようになっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑える努力は行っているが、体調不良にて離職する場合など、誠に残念である。	○ なじみの関係を築けるよう職員が定着できるよう人選していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は立てていないが、研修案内が来たときは経験など考慮し参加させている。その他の定例会などは順番に出席できるようにしている。	○ 月1回テーマを職員が決め、勉強会をしていく予定
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック定例会や、県の定例会に参加している。	○ 一定期間、交換職員研修などしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人の希望を取り入れたシフト作りをするよう努力している。職員の小さな変化をも見逃がさないよう気をつけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己の向上心、啓発の取り組みにそよう環境を整える用意はある。	○ 自己評価を導入する予定である。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に家族や、サービス利用時は事業所職員にも立会いしていただき、事前調査をに対応している。必ず利用者さんとも面接している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に事前調査で家族とも面接をし、抱えている不安や求めていること等聞いている。入所した日にも、ご家族へホームの生活での求めていることなどを聞き、計画作成に盛り込むようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは、必要としていることは何なのかを見極め、的確に答える努力をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が早く施設の生活に慣れていただくよう観察しながら、その方の生活歴なども家族より詳しく聞き、サービス計画をたてている。また、できるだけ在宅で使用していたものを持参していただくようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する中で生活の知恵など教えられたりしている。食事作りに関しては、共に台所に立つようにして、コツや、段取りなど教えてもらっている。		人生の先輩として、尊敬する心を忘れず接していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告をし、家族の協力を得られることで改善できることはお願いしている。入所されたことで精神面、身体的にも安心されたことを分かち合い次はホームでの暮らしを安心して過ごしていただくために、職員家族とで前向きに進めていく。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係は、その家庭により様々であるが、ご本人、家族とも良い関係でいられるよう情報提供など続けていく。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時ご家族の方と連絡を取り支援している。面会者の方には、ご本人との関係などもお聞きしながら忘れてしまうようなときは職員が間を取り持つようにしている。また、共通のお友達にも声をかけていただければと、一言添えている。	○	なじみの場所に行き行って見る個別支援も回数を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士でトラブル発生している時は、危険がないよう職員が介入している。利用者同士で助け合う光景を目にする。椅子にかけるとき引くことを手伝ったり、立ち上がり時に声をかけたりしてくれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院にて退所された方には、職員がかわるがわるお見舞いに行き、ご家族との情報交換を行っている。在宅に退所となった方にはケアマネージャーから情報を聞いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さりげない日常会話の中から、ご本人の意向、希望などを聞き取る努力をしている。困難な場合はご家族へ情報などを聞いている。また、言動・行動を観察することで、何かの訴えではないだろうかと、職員みんなで考えるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族・ご本人からの協力を得て利用者記録を作成。生活歴や職歴、趣味など、入所にいたるまでの詳しく聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	いつも同じ状態ではない利用者ひとりひとりの特徴をつかんで体調管理、食事摂取量、睡眠時間、排泄に関しては毎日チェックしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に個別のカンファレンスをしている。特記があれば、その都度職員申し送りノートに記載し共有している。		カンファレンス計画や、ご家族参加のサービス担当者会議の年間計画表をつくっていききたい。また、ゆっくり、一緒に、楽しみながらをモットーに、一人ひとりのその人らしさを大切にしたい計画を実行していききたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは、常に利用者さんに合わせて変化するものであり、変化に応じて常に見直しを行っている。居室担当者を中心に、他の職員への申し送りを正確に確実にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う感じ・・とか、どうしたのかな・・を見逃すことなく本人が用いた言葉そのままをチャートに記入するようにしている。各出番の職員への申し送りを正確に確実にこなっている。		個別に日中、夜間の様子、その中ででの気づきなど記録に記入。情報を共有しながら計画の見直しをしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にお茶、踊りのボランティアに来ていただいている。隣接するしいのみホームさんとの交流は何回かもっている。管轄の消防署指導の下、火災訓練を行っている。消火器の使い方、避難誘導の仕方など、たくさんの質問にも答えていただいている。		SOSネットワーク登録も予定している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までにはない。	○	今後、本人の意向、必要性があれば対応し支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までにはない。	○	今後、本人の意向、必要性があれば対応し連携をとっていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医に定期的に受診しているが、本人と、家族の意向があれば、利用前からのかかりつけ医に継続して診てもらえるようにしている。月1回は協力医が往診してくれ利用者全員を見ていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>利用者の中では、いらっしゃるが、全利用者とはいえない。</p> <p>今後の課題としていく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>訪問看護との契約により週1回2時間の訪問で利用者の健康管理、医療面での相談などしている。また、昼夜問わず連絡できる体制づくりをしている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>協力病院への入院であれば、同系列の訪問看護と契約しているため、情報交換、相談など早期退院に向けての対応はできていると思う。</p> <p>協力医以外の医療機関に関しては今後を考え連携体制作りを検討していく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化・終末期まで、まだいたっていない。</p> <p>重度化・終末期に備えマニュアルを職員みんなが周知し、ご本人・家族の希望に沿うよう話し合いをより良い方向性を見つけて支援できるような体制作りをしていく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>「一人ひとりのその人らしさを大切に」を方針として、希望された状態で暮らせるよう、連携支援を構築中である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>家族や他機関との連携によりダメージ防止に努めている。居室になじみのものを持ち込んだり家具の配置に気を配るなどしている。トイレ・洗面所・居室の誘導の声がけは頻繁に落ち着いた声で行う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替え、排泄、入浴、夜間等のプライバシーには気配りをしている。個人情報・記録物も同様に気配りしている。	○ 広報は記事内容について外部用・内部用と2種類作る予定。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に応じた声かけを行い、訴えに関しては、そのつど対応している。自ら進んで食事作りや食器拭き、モップがけなどに関わってもらっている。自分の仕事と、自主的に動かれる方もいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分によって波があるのは当然でお互い様。やれていたことを、やりたくない日。やれなくなる日。やる気になる日。いろいろである。最低ラインを家族と決めておいてそれがクリアできれば良しとする柔軟さで暮らしていただいている。	一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援できるよう努力はしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば、理容・美容の出張サービスに随時来てもらっている。なじみの美容院がある方は、家族が連れて行かれる。季節の変わり目、重ね着がめだつので声かけにて調節をうながしている。	一緒に着替えの準備をしたり、衣類の買い物があつた時は、本人同行で選んでもらっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共同で調理、盛り付け、配膳、その後の片付けを一連の中で、少しずつでもお手伝いしていただいている。職員も3食、同じものを食べるようにしている。ホームで、利用者さんと育てた野菜を食卓に並べたり、行事に合わせたメニュー作りを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分摂取時、おやつ時など、本人の好みを聞き、その度リクエストに答え提供している。現在、お酒、たばこをたしなむ方は居られない。	夏の花火大会の際、お酒の希望があり、ノンアルコールビールを提供。大変喜ばれていた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、24時間チェック表に基づき定時の声かけを行っている。日中は出来るだけ布パンツで過ごしていただけるようにしている。布パンツにしている事で職員もトイレへの誘導を忘れなくなった。		個々の排泄リズムを把握する努力をしている。排泄の失敗で自身をなくされぬよう対応していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施し、個人でゆっくり入浴できるよう、せかさないうちをケアをしている。声がけした時に、本人の希望があった際は、取り入れ、好きな時間に入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならぬ様、昼間は散歩で体を動かしたり、日光に当たったり、室内のレクリエーションで体を動かし笑い、と夜間の良眠に結びつく様アイデアを出し合っている。昼寝も、30分程にとどめている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を大切にし、能力に即した役割を持って頂き笑いのあるレクリエーションや、職員の会話などで盛り上げている。集団生活ではあるが、ホッと一人になれる場を提供するよう見守りに努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持されている方は、ほとんどいない。食材の買い物などで、現金をもたせレジで支払う事などで、お金に對しての支援を行っている。		家族が遠方の方などは、身の回りの物の購入は個人的に職員と外出し好みの物を選んでいただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、なるべく散歩をし公園までのグループと、ホーム周辺散歩グループに別れ外出するようにしている。畑仕事、テラスにでてハーモニカなど個別に行っている。火曜日、土曜日は買い物レクを実地。ドライブがてら外出できるよう段取りしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	帰宅願望の強い方へは、個別ケアとして、生家などへ行ったりしている。敬老会には、家族にも声かけし、温泉に出かけ、昼食を食べ楽しみ、盛岡花火祭りにはバーベキューをしながら家族と共に花火見物ができた。小岩井農場の年間パスポートを購入し、天候、体調にあわせて出かけている。		

(事業者名 グループホーム メルシー長橋)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があったさいは、受け入れている。手紙も自由ではある。遠方の息子さんに自筆の手紙を送った事例がある。個別の希望、家族さんの都合にそうよう話し合いおこなっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人の面会は、自由に来ていただいている。居室でもホールでも自由に場所を選んでいただき、お茶を飲みながらゆっくりしていただいている。宿泊される方においては、利用者さんと同じ居室ではあるが、いつでも泊まれるよう準備をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解している。身体拘束は、行っていない。		利用者さん同士で使っている「あなただめでしょ」という言葉もなくしたいと模索中であえう。言わなくても良い環境づくり、言われない環境づくりを目指したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には、鍵はない。玄関は、7:00～19:00まで開いている。夕食後に、外からの部外者侵入を防ぐために戸締りを行うのみである。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、随時所在確認、夜間は、定時巡視している。職員全員、他者まかせにすることなく責任を持って行っている。ベランダ側、玄関近くなどは特に注意をはらっている。無断で外に出る利用者などにも、そのつど対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理用具の数の把握、貸し出し物品の回収の徹底など、職員同士声かけ確認を行っている。洗剤・漂白剤など入居者の目の届きにくい場所に保管し、管理を行っている。バケツもふたつきの物を使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット事故報告書の報告に止めず、職員全員閲覧し、確認し、全員心のゆるみを引き締め直し業務にあたっている。夜間帯定時の巡視を行い、急変、事故防止、早期発見に努めている。	○	救急、救命の講習を予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は出来ていない。急変や事故発生時は、連携できる体制を作っている。警察のsos登録に書類提出している。	○	消防署などにお願ひ指導していただく勉強会を定期的に行って行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管轄の消防署依頼にて助言・指導をもとに職員全員火事における避難訓練を実施。近隣施設の方も参加協力を得ている。		マニュアル作成をし、状況に応じた自己訓練を定期的に行って行きたい。近隣施設との合同練習に取り組んでいく。又は、推進会議などで地域の方へのボランティア協力なども話し合っ行って行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	日々生活の中で変化や、必要と思われる事項、急を要する事柄などは電話連絡を行い、それ以外は面会時又は月1回の手紙などで近況を報告。その中で、危険なことなど話している。変化や出来事は、必ずご家族と共有するようにしている。		個々の状態に応じ起こり得るリスクを回避できるよう家族に相談している。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、食事量、排便・排尿状態のチェック、全身の視診、行動や顔色などに気を配り異常は情報交換をし職員全員で共有し、早めに受診している。入浴時の全身視診も必ずしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬確認を行っている。通院時は通院記録を書き薬が変わった時は副作用等の注意事項も書くようになっている。症状変化時は訪問看護に連絡し、医師との連携で指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を元に、管理・観察をおこなっている。医療機関との連携で個別対応している。水分量、食事量の確保。適度な運動で1日1回はなるべく外へ散歩に行くようになっている。出かけられない時は体を動かすレクを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食前のうがい、食後の歯磨き、夕食後の義歯はずし、洗浄剤使用にて衛生保持に心がけている。イソジン液使用。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、水分に関しては食事以外、10時・15時以外麦茶入りポットを食堂にセットしておき自由に飲める環境づくりをしている。月末に体重測定にて前月との比較から健康状態を知る手がかりとしている。体調不良時の摂取不足は好物の差し入れを家族にお願いしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	洗面所には液体のハンドソープ。イソジンうがい液。アルコール噴霧器を常備し手洗い、うがいを行っている。ペーパータオル使用。ワクチン接種は家族の同意のもと行う。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関して賞味期限を守り、新鮮なうちに調理することを心がけている。業務用の冷凍庫を2台設置しており、毎回使用。開閉する冷凍冷蔵庫とは区別しており食材の鮮度が保たれている。布巾、おしぼりは使用後漂白剤入り液体につけこみ専用の洗濯機にて洗っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事務所に面しているので職員の対応が敏速に行える。チャイム設置し、照明は玄関、玄関ホール、玄関の外と分かれており足元の明るさに不足はない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床面につまづくような物はおいていない。ホーム内の壁にはレクでの様子を映したものが張り巡らされ、色塗りされた塗り絵なども飾ってある。ホームの畑で採れたかぼちゃや、散歩時に摘んだ草花も生けている。浴槽内は高低差があり、必要であれば半身浴も行える。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天候にもよるがテラスに長いすを出すことがある。食堂のテーブル周りに椅子を置いているが、それ以外にも玄関前、廊下の中央に長いすを設置している。畳部分もあり、横になったり窓から外の景色を眺めたり読書をされたりと思い思いに過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限りで使い慣れた物を持参してもらっている。物が見えることで安心できるよう、クローゼット部分にあえて扉をつけずにオープンにしている。一人暮らしだった方にはご兄弟さんの協力を得てなじみのものをお願いしたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気している。温湿度計にて調節している。寒くなってきた今も、掃除時は窓をあけ空気入れ替えをしている。不快な匂いが立ち込めたときはこまめに窓あけをおこなっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室内、玄関へ手すりの設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのペースに合わせた声がけ。ホーム内開き戸に場所の名前をつけている。居室にも〇〇さんのお部屋と表示し、利用者さんの目線の高さに表示している。居室がわからなくなる方には目印をするなど工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏場は玄関前のスペースを使い、たらいに3～4人ずつで足湯を楽しまれる。ベランダでは行事にあわせて食事をしたりベンチを置き、ひなたぼっこのスペースにも活用している。畑ではプチトマト、なす、きゅうりなどたくさんの野菜を栽培し、その周辺には数種類の花も育てた。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)